

野鳥と草花の 楽園



私と遺産

埋め立てた湿原、修復を

「元々は湿原。使わなくなったら元に戻そう」。
NPO（特定非営利活動法人）「霧多布湿原ト
ラスト」理事長の三膳（さんぜん）時子さん
(45)は、湿原復元事業に取り組んでいる。

湿原の近くで生まれ育った三膳さんにとっ
て、湿原は以前は「生活の場に接した季節の花
がきれいな湿った草地」でしかなかった。86年
湿原保全に取り組む任意団体「霧多布湿原フ
ァンクラブ」が結成され、その事務局を手伝った。
事務局に全国から「湿原の美しさに魅せられた」
や「貴重な自然を守って」との手紙や電話が寄
せられ、三膳さんは「周囲を見渡して改めて感
動した」。

ファンクラブが99年12月に解散し、それを受
け継いで00年1月、トラストを設立。三膳さん
は理事長に就任した。「ここは湿地で、利用し
にくいから自然のまま残った貴重な土地。人工
で作れない宝物を子供たちに残そう」と考えた。

「埋め立てられた湿原を修復し、植生を復元
しよう」。昨年9月、200万円をかけて湿原
内に放置されていた漁業者の作業小屋を撤去。
コンブの干し場として敷き詰められていた砕石
を取り除き、一部に池を作った。民間による湿
原復元は道内初。3年かけて復元するかを調べ、